

# アメリカの未来と2020年7月18日-ナンバー・シックス

少尉

Jeff Pippenger

2023-09-23

そして三日半の後、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは自分の足で立ち上がった。彼らを見た者たちの上に大なる恐れが臨んだ。彼らは天から「ここに上って来なさい」と告げる大きな声を聞いた。すると彼らは雲に包まれて天の上って行き、彼らの敵はそれを見た。黙示録 11:11、12。

通りで踏みつけにされた後、エリヤとモーセは慰め主を受けて、自分の足で立ち上がった。エゼキエルの骨の谷では、まず物音がし、その後、揺れが起こったが、彼らにはまだ息がなかった。

それで、わたしは命じられたとおりに預言した。わたしが預言すると、音がして、見よ、震えが起こり、骨と骨が寄り集まって、それぞれの骨に組み合わさった。わたしが見ていると、見よ、その上に筋と肉が生じ、さらに皮膚がそれらをおおった。しかし、彼らのうちには息がなかった。エゼキエル書 37:7、8

身体が再び組み立てられると、彼らは四方の風の声を聞く。

彼は私に言った。「風に向かって預言せよ。預言せよ、人の子よ。風に言え。神である主はこう仰せられる。『四方から来たれ、息よ。殺されたこれらの者たちの上に吹きかけ、彼らを生きさせよ。』」そこで私は命じられたとおりに預言した。すると息が彼らの中に入り、彼らは生き返り、自分の足で立ち上がった。非常に大なる軍勢であった。エゼキエル書 37:9、10。

すべての預言者は世の終わりを指し示している。ゆえに、エゼキエル書の箇所は、黙示録11章の二人の預言者のメッセージを避けようとする者たちにとってジレンマを生じさせる。もちろん、そのメッセージを退けたい人々にとって最も手っ取り早い自己欺瞞は、黙示録11章はフランス革命を表す単なる歴史にすぎず、世の終わりへの適用はないと自分に言い聞かせることだ。しかし、黙示録11章でさえ世の終わりを指し示しているという前提を受け入れるなら、世の終わりにおいて大声で第三の天使のメッセージを告げる強力な軍勢が、神の軍勢として立ち上がる以前に死に、よみがえらされるものとして示されているという事実を整合させなければならない。

そのとき、彼は私に言った。「人の子よ、この骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言っている、『私たちの骨は干からび、私たちの望みは失せた。私たちは断ち切られてしまった』と。だから、彼らに向かって預言して言え。『主なる神はこう仰せられる。見よ、わが民よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げ、イスラエルの地に導き入れる。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたはわたしが主であることを知る。わたし

はあなたがたの内にわたしの霊を置く.すると、あなたがたは生きる.わたしはあなたがたをあなたがたの地に住ませる.そのとき、主であるわたしがそれを語り、またそれを行ったことを、あなたがたは知る』と、主は言われる。」エゼキエル書 37:11-14.

キリストは雲に乗って天に昇り、また雲とともに戻って来られる.雲は天使を表している. モーセとエリヤは、アメリカ合衆国における日曜法の時に空中を飛ぶ第三天使のメッセージを表す雲のうちに、天に昇る.

モーセとエリヤは、イスラムのメッセージと関連して、日曜法の時に天に昇る.

イザヤはこの歴史に結びつく多くの真理を指摘しており、それはイエスがご自分の働きを示すために引用したのとまさに同じ箇所の中にある.彼は、自国の人々に預言の言葉が受け入れられない例として預言者エリヤとエリシャを挙げ、それによってナザレの教会の人々はただちに怒り、彼を殺そうとした.

主なる神の霊が私の上にある.主が私に油を注ぎ、柔和な者に良い知らせを告げさせるためである.主は私を遣わし、打ち砕かれた心の者を包み癒やし、捕らわれ人に解放を、縛られている者に牢の開放を宣言させるためである.主の恵みの年と、我らの神の報復の日を告げ、嘆くすべての者を慰め、シオンで嘆く者たちに、灰に代えて冠を、喪に代えて喜びの油を、憂いの霊に代えて賛美の衣を与えるためである.こうして彼らは義の樹と呼ばれ、主の植えたものとされ、それによって主は栄光を受ける.彼らは古い荒れ跡を建て直し、昔の荒廃を興し、代々荒れ果てた町々を修復する.よそ者があなたがたの群れを牧し、異国人の子らがあなたがたの耕作者、ぶどう作りとなる.しかし、あなたがたは主の祭司と呼ばれ、人々はあなたがたをわれらの神の奉仕者と呼ぶ.あなたがたは異邦人の富を食べ、その栄光のうちに自ら誇る.あなたがたは恥の代わりに二倍のものを得、辱めの代わりに自分の取り分を喜ぶ.それゆえ、彼らは自分の地で二倍のものを所有し、永遠の喜びが彼らのものとなる.というのも、わたしは主、裁きを愛し、焼き尽くす献げ物のための略奪を憎む.わたしは真実をもって彼らの働きを導き、彼らと永遠の契約を結ぶ.彼らの子孫は異邦人の間で知られ、その末は諸々の民の間で知られる.見る者は皆、彼らが主に祝福された子孫であることを認める.私は主にあって大いに喜び、私の魂は私の神のうちに喜ぶ.主は私に救いの衣を着せ、義の外套で私を覆ってくださった.花婿が飾りで身を飾り、花嫁が宝飾で自らを飾るように.大地が芽を芽吹かせ、庭がその中にまかれたものを芽生えさせるように、主なる神はすべての国々の前で義と賛美を芽生えさせる.

シオンのために私は沈黙せず、エルサレムのために私は休まない.その義が光のように現れ、その救いが燃えるともしびのように輝き出るまで.諸国の民はあなたの義を見、すべての王はあなたの栄光を見る.あなたは主の口によって名づけられる新しい名で呼ばれるであろう.あなたはまた、主の御手の中の栄光の冠、あなたの神の御手の中の王の宝冠となる.あなたはもはや「見捨てられた者」とは呼ばれず、あなたの地も再び「荒れ果てた者」とは呼ばれない.むしろ、あなたは「ヘフジバ」と呼ばれ、あなたの地は「ベウラ」と呼ばれる.主があなたを喜び、あなたの地は結ばれるからである.若者が処女と結ばれるように、あなたの息子たちはあなたと結ばれ、花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ばれる.エルサレムよ、私はあなたの城壁の上に見張りを立てた.彼らは昼も夜も決して沈黙しない.主を呼び求める者たち

よ、黙してはならない。主がそれを堅く立て、エルサレムを地の誉れとするまで、主に休みを与えるな。主はその右の手とその力の腕にかけて誓われた。「わたしはもう二度と、あなたの穀物をあなたの敵の食物として与えない。あなたが労して得たぶどう酒を、異邦人の子らに飲ませることはない」。それを集めた者がそれを食べて主を賛美し、それを収めた者がわたしの聖所の庭でそれを飲む。門を通れ、通り抜けよ。民のために道を整えよ。大路を築き上げよ。石を取り除け。民のために旗じるしを掲げよ。見よ、主は地の果てまで告げ知らせられた。「シオンの娘に言え、『見よ、あなたの救いが来る。見よ、その報いは彼とともにあり、その働きは彼の前にある』」。人々は彼らを「聖なる民」「主に贖われた者」と呼び、あなたは「求められる者」「見捨てられない都」と呼ばれる。イザヤ書 61:1-62:12.

主は、かつては「見捨てられた」が、その後「見捨てられない」「都」となる十四万四千人と「永遠の契約」を結ばれる。彼らは「荒れ果て」、通りで死んでいた。イザヤは、彼らを「主の祭司」、主の「奉仕者」、「聖なる民」、そしてシオンの城壁の上の「見張り人」として示している。

彼らの死体を喜んだ者たちとは対照的に、神はそのとき彼らを「花婿が花嫁を喜ぶように」喜ばれる。花嫁はそのとき備えを整えられている。フィラデルフィアへの約束において主が彼らに「新しい名」をお与えになるのと同様に、主は彼らの名を「ヘフツィバ」と「ベウラ」と定められる。ヘフツィバは「わが喜びは彼女のうちにある」を意味し、ベウラは「結婚する」を意味する。主はエリヤとモーセに象徴される者たちと結ばれる。

彼らに与えられた務めは、キリストとその義の「福音」を「世の終わりまで」宣べ伝えることによって、キリストの再臨のための道備えをすることである。彼らは御霊の注ぎにおいて慰め主によって油注がれ、その後、「天からの大いなる声」が彼らに「ここに上って来なさい」と言うように、「旗じるしとして高く掲げられる」ことになる。その時、彼らは主の御手のうちにある「栄光の冠」および「王の宝冠」のようになる。ゼカリヤは、この同じ冠を旗じるしと見なし、さらにその出来事を「後の雨」の時に位置づけている。

その日、彼らの神、主は、ご自分の民の群れのように彼らを救われる。彼らは王冠の宝石のようになり、その地の上に旗印のように掲げられるからである。なんと大いなることか、その善、その麗しさは。穀物は若者たちを喜ばせ、新しいぶどう酒は乙女たちを喜ばせる。後の雨の時に、主に雨を求めよ。そうすれば主は輝く雲を造り、彼らにわか雨を与え、各人に野の青草を与えられる。ゼカリヤ 9:16-10:1.

彼らは「御自分の民の群れ」となる。しかし主には、その時なおバビロンにいる第二の群れもあり、主は彼らも召し出す。彼らの働きは、「昔の」荒れ跡を建て直し、多くの世代にわたる「荒廃の跡」を復旧することである。彼らは、アドベンチズムの内でも外でも退けられ、覆い隠されてきた古い道に立ち返り、それを再び据え直す者たちである。彼らはミラー派の基礎的真理に立ち返り、それを純粋なまらオデキア的アドベンチズムに提示し、また、神の律法、ことに安息日に関わる「昔の」真理について、アドベンチズムの外にいる人々にもメッセージを示す。その際、彼らは多くの世代の歴史を用いて新しい歴史を例証する。彼らの働きは、神の裁きが地に下っている「後の雨」の時に行われる。主が御自分の右の手で彼らを旗じるしとして高く掲げられるとき、かつて通りに横たわ

る彼らの死体を見て喜んでいた全世界は、その旗じるしを見、見張りの者の警告のラッパを聞くであろう。

全世界の住民よ、地に住む者よ、彼が山々の上に旗印を掲げるときには見よ、彼がラッパを吹き鳴らすときには聞け。イザヤ書18章3節

黙示録第十一章で、彼らの死体を見て喜んでいた者たちが、彼らが立ち上がるのを見たとき、「彼らを見た者たちに大いなる恐れが臨んだ」。

そのとき、アッシリヤは剣に倒れるが、それは勇士の剣ではない。身分の低い者の剣でもない。その剣が彼を食い尽くす。彼は剣の前から逃げ去り、その若者たちは苦役に服する。彼は恐れて自分の要塞へ退き、彼のつかさたちは旗印を見ておののく。シオンにその火があり、エルサレムにその炉がある主の仰せである。イザヤ書31章8-9節

すべての預言者の証言はヨハネの黙示録において一つに結びつく。アッシリア人は、ダニエル書11章40~45節に出てくる、助ける者もなくその終わりに至る「北の王」を象徴している。神の見張り人である十四万四千人がラッパを吹くと、全世界がそれを聞いて恐れる。二人の預言者によって象徴される者たちは、「慰め主」によって「良い知らせを告げる」ために「油注がれ」るが、その良い知らせとは、ダニエル書11章44節において北の王を「騒がせる」「東から、また北からの知らせ」であり、それが日曜法危機の迫害の始まりを告げる。その時、異邦人はバビロンから出て来るようにとのメッセージに応え、また「エッサイの根」としても表されている主の祭司たちのもとに来て彼らに加わる。こうして、彼らが異邦人に警告のメッセージを提示するために用いる聖書的な方法論が明らかにされる。

その日、エッサイの根が民のための旗印として立ち、異邦人はそれを求め、その安息は栄光に輝く。その日、主は再び、二度目に御手を伸ばして、アッシリア、エジプト、パトロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、そして海の島々から、残されているご自分の民の残りの者を取り戻される。主は諸国のために旗印を掲げ、イスラエルの追い散らされた者を集め、地の四隅からユダの散らされた者を集められる。イザヤ書 11:10-12.

主は、2001年9月11日に、イスラムの攻撃を第三の災いの到来だと示すメッセージによって、ご自分の民を集められた。主は、その民が通りで死んだ後、ふたたび二度目にご自分の民を集められる。その時に集められる者たちは「イスラエルの逐われた者」および「ユダの散らされた者」とされる。彼らは2020年7月18日に通りに追い出されたが、二度目に集められて、なおバビロンにいる神のもう一つの群れを集める旗印となる。なおバビロンにいる者たちの集めは、アメリカ合衆国における日曜法のときに始まる。アメリカ合衆国におけるこの日曜法は、黙示録18章の二つの声のうち第二のものである。

最初の集いは、イスラムがアメリカ合衆国を攻撃した2001年9月11日に起こった。二度目に集められる旗印として、彼らはエッサイの根として表されている。これは、物事の終わりをその始まりとともに示すアルファとオメガの働きを表す象徴である。最初の集いは、イスラムによるアメリカ合衆国への攻撃によって特徴づけられ、それは第二の集いがアメリカ合衆国に対するイスラムの攻撃であることを示し、特定している。エッサイの根が異邦人への旗印として立つとき、その「憩い」は栄光に満ちる。というのも、その旗印は

、なおバビロンにいる者たちを、聖書の古き道である第七日安息日に立ち返らせるからであり、こうして異邦人のための旗印が日曜法の危機において掲げられることが標されるのである。

「旗印」はまず、マラキ書3章、キリストの二度の宮清め、そしてもちろんミラー派運動の終わりにおける十人の乙女のたとえにおいて描かれている浄化の過程を経験する。初めの浄化の過程は終わりに文字通り繰り返され、ある書物に記されている唯一の表と関連してイザヤによって表されている。アドベンチズムの背教とは、ハバクク書2章に記されている二つの表を退けて置き換えるために1863年に作られた偽の表である。

今、行って、それを彼らの前で板に書き、書物に記し、後の日のため、とこしえに残る証とせよ。これは反逆の民、偽りを口にする子ら、主の律法に耳を貸そうとしない子らであることを。彼らは先見者に向かって「見るな」と言い、預言者に向かって「正しいことを私たちに預言するな。心地よいことを語れ。欺きの預言をせよ」と言う。「道から退け、通り道から外れよ。イスラエルの聖なる方を私たちの前から遠ざけよ。」それゆえ、イスラエルの聖なる方はこう言われる。「あなたがたがこのことばを侮り、圧迫と曲がったことに頼り、それに寄りかかったゆえに、この咎は、崩れ落ちようとする破れ目のように、高い壁のふくらみのように、あなたがたにとってなり、その破れはたちまちにして突然やって来る。」主はそれを、陶器師の器が打ち砕かれるように打ち砕き、惜しむことなく砕き、炉から火を取るにも、ため池から水をくむにも使える破片すら、その破れの中に見いだされないほどにされる。まことに、主なる神、イスラエルの聖なる方はこう言われる。「立ち返って憩うならば、あなたがたは救われる。静かにして信頼するならば、それがあなたがたの力となる。」しかし、あなたがたは望まなかった。あなたがたは言った。「いや、私たちは馬で逃げる。」それゆえ、あなたがたは逃げねばならない。「私たちは俊足の馬に乗る。」それゆえ、あなたがたを追う者も俊足であろう。ひとりの叱責で千人が逃げ、五人の叱責であなたがたは逃げ去り、ついには山の頂の旗ざおのように、丘の上の旗印のように取り残される。それゆえ、主はあなたがたに恵みを施そうとして待ち、あなたがたをあわれもうとして立ち上がられる。主は裁きの神であるから。彼を待ち望む者はみな幸いである。まことに、民はシオン、エルサレムに住む。あなたはもう泣くことはない。あなたの叫びの声に、主はきわめて恵み深い。これをお聞きになるとき、主はあなたに答えられる。イザヤ書 30:8-19

1863年、アドベンティズムは、ハバククの二枚の聖なる板に示されているウィリアム・ミラーの預言的メッセージを拒絶する過程を開始した。イエスは初めによって終わりを示す。この箇所では、アドベンティズムの初めにおける反逆者たちは、アドベンティズムの終わりにおける反逆者たちも表している。いずれの場合も、その反逆は、彼らが「先見者」に向かって「見るな」と告げ、「預言者」には「私たちに正しいことを預言するな。私たちに耳ざわりのよいことを語れ、欺きを預言せよ」と告げるとき、それぞれの歴史における預言的メッセージと方法論の拒絶を表している。

彼らはまた、「道をあけろ、道から外れよ、イスラエルの聖なる方を私たちの前から遠ざけよ」と宣言して、道を離れることを決める。義人の道とは、エレミヤ書六章十六節・十七節にある「いにしえの道々」である。反逆者たちは、土台となる真理のうちを歩むことも、ミラー派運動とフューチャー・フォー・アメリカの運動を表す立てられた見張り

が吹き鳴らすラッパの音に耳を傾けることも、しないと心に定める。

主はこう言われる。道に立って見よ、昔の道、どれが良い道かを尋ね、それを歩め。そうすれば、あなたがたは魂の安らぎを見いだすであろう。しかし彼らは、「そこを歩まない」と言った。また、わたしはあなたがたの上に見張りを立て、「ラッパの音に耳を傾けよ」と言った。しかし彼らは、「聞き入れない」と言った。それゆえ、国々よ、聞け。会衆よ、彼らのうちに何があるかを知れ。地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災いをもたらす。すなわち彼らの思いの実を。彼らがわたしの言葉にも、わたしの律法にも耳を傾けず、これを退けたからである。エレミヤ書 6:16-19

反逆者たちが古い道を歩むことを拒むことは、彼らが「イスラエルの聖なる方を自分たちの前からいなくならせたい」と望む姿としても表されており、また、アルファとオメガが始まりをもってアドベンチズムの終わりを示すという前提に立つ真夜中の叫びのメッセージの拒絶をも表している。

彼らは道の始まりで、自分たちの背後に明るい光を据えていたが、それは天使が私に「真夜中の叫び」だと告げたものだった。この光は道全体にわたって輝き、彼らの足もとを照らして、つまずかないようにした。

彼らの目の前におられて都へと導いておられるイエスから目を離さなければ、彼らは安全であった。だがまもなく、何人かは疲れ、都ははるか遠くにあり、自分たちはもっと前にすでにそこへ入っているはずだと期待していたと言った。そのときイエスは、栄光に満ちた右の御腕を挙げて彼らを励まされ、その御腕から光が出て再臨の一団の上を揺らめきながら覆い、彼らは「ハレルヤ！」と叫んだ。ところが、ほかの者たちは軽率にも背後の光を否定し、ここまで自分たちを導いたのは神ではないと言った。すると背後の光は消え、彼らの足もとは全くの暗やみとなり、彼らはつまずいて目標とイエスを見失い、道から外れて下の暗く邪悪な世へと落ちていった。『エレン・G・ホワイトのキリスト教的経験と教訓』57頁。

「真夜中の叫び」によって表される浄化の過程は、二種類の礼拝者を生み出す。そしてイザヤ書三十章は、愚かな乙女たちの油の欠如を、水や火を得ることができないこととして表しており、水と火はいずれも慰め主の象徴である。イザヤはこう書く。「その破壊は一瞬にして突然やって来る。彼はそれを、陶器師の器を粉々にするように打ち砕き、容赦しない。そうして、その裂け目の中には、炉から火を移すにも、穴から水をくむにも使える破片すら見いだされない。」彼らの裁きは真夜中の叫びにより表されているように「突然」やって来て、そのとき彼らは油を得るにはすでに遅すぎることに気づく。イザヤの証言における火と水は、十人の乙女のたとえにおける油の別の表現にすぎない。油、水、火は品性を表し、メッセージを表し、さらに慰め主の臨在も表す。十人の乙女の裁きが「一瞬のうちに突然やって来る」とときには、これらの象徴は何一つ手に入れることができない。そのときはもう手遅れである。

ただ一つの安全は「立ち返る」ことにある。これは、エレミヤが第一の失望で落胆した者たちを代表したときに、彼に与えられた約束である。もし神の民が神のもとに立ち返るなら、神は彼らのもとに立ち返ってくださる。しかし反逆者たちは拒み、道を照らしていた光は消えた。初めの光は真夜中の叫びであり、前方の道は永遠に至るまでキリストの栄光

の右の御腕によって照らされた。キリストはその道を行く者たちの前におられ、後ろの光も同じ光でなければならない。というのも、キリストは道の終わりを道の始まりによって示しておられるからである。真夜中の叫びは、かつても今も現在の真理である。

「私はしばしば、五人は賢く、五人は愚かであった十人の乙女のたとえを引き合いに出されます。このたとえは、この時代に対して特別な適用があるため、文字どおりにすでに成就してきており、これからも成就します。また、第三天使のメッセージと同様に、すでに成就しており、時の終わりまで現在の真理であり続けます。」 Review and Herald, 1890年8月19日

彼らの前から聖なる方を退けようとする願望は、キリストを拒むことだけでなく、アルファでありオメガであるキリストをも拒むことにほかならない。これは「真夜中の叫び」のメッセージの拒否である。アドベンチズムの初期における「真夜中の叫び」のメッセージは、失敗した予言の修正であった。

『古い道』を拒み、偽の『表』を作って、ミラー派運動における『真夜中の叫び』の成就によって表された義なる者たちから分離したのは反逆者たちであった。次いで『一人の叱責で』『一千人』が逃げ去り、運動は五万人から五十人へと一気に縮小した。彼らが逃げたのは、『分け与える油はない。自分の油は自分で買いなさい』と告げた『五人』の賢いおとめたちからの『叱責』のためであった。愚かなおとめたちと賢いおとめたちの分離によって、賢いおとめたちは『山の頂の灯台、丘の上の旗印』として残された。1844年10月22日の愚かなおとめたちの反逆は1863年の反逆を例証していた。というのも、1844年10月22日は、レビ記26章の『七つの時』の終わりを表す十九年間の始まりだったからである。この主題について語るべきことはまだあるが、1844年の反逆は1863年の反逆の型であり、偽の『表』が作られた時点を描いている。

愚かな乙女たちが経験する恐れとは、賢い乙女たちがよみがえって自らの足で立ち上がるときに示される恐れである。その時には、2020年7月18日の失望から立ち直るには手遅れであり、次に起こるのは、日曜法のときに起きる天への昇天である。その時に大地震が起こる。

そして同じ時、大地震が起こり、市の十分の一が倒れ、地震で人が七千人殺された。残りの者たちは恐れて、天の神に栄光を帰した。第二のわざわいは過ぎ去った。見よ、第三のわざわいがすぐに来る。黙示録 11:13、14。

黙示録11章は、フランス革命のさなかに都の十分の一が倒れ、その歴史において、ソドムとエジプトとして表される二つの預言的な角から成る国家であったフランスが打ち倒されたことを示している。フランスの二本の角は、アメリカ合衆国の二本の角を予表している。

フランスは、ダニエル書7章で異教ローマを表す十の王国の一つを預言的に指しており、ゆえに王国（都市）の十分の一が倒れた。実際、最終的に538年に教皇権を地上の王座に据えたダニエル書7章の十本の角のうち、フランスはその教皇権を確立した主要な王国であった。ダニエル書7章の十の勢力の一つとして、フランスは黙示録13章の二本の角を持つ地の獣の役割を象徴している。アメリカ合衆国は、終わりの時に、フランスが初めて行

ったのと同じ働きを教皇権のために成し遂げる。アメリカ合衆国は、国連を表す十人の王の中で最有力の勢力であり、日曜法の地震の際に倒れる。これらの聖句については、次の記事でさらに詳しく取り上げる。

本稿の主要な主題の一つは、それが神の民を立ち上がらせるメッセージであるということである。なぜなら、彼らを立ち上がらせる慰め主は油を表しており、その油は聖霊を象徴するだけでなく、神がご自分の民に送られるメッセージも象徴しているからである。モーセとエリヤを立ち上がらせる黙示録11章のメッセージは、エレミヤに与えられた約束によっても表されている。

それゆえ、主はこう言われる。「もしあなたが立ち返るなら、わたしはあなたを再び立たせ、あなたはわたしの前に立つであろう。もしあなたが卑しいものの中から尊いものを取り出すなら、あなたはわたしの口となる。彼らをあなたのもとに立ち帰らせよ。しかし、あなたは彼らのもとへ立ち帰ってはならない。わたしはこの民に対して、あなたを堅固な青銅の城壁とする。彼らはあなたと戦うが、あなたに勝つことはできない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い、あなたを救い出すからだ」と主は言われる。「わたしは悪しき者の手からあなたを救い出し、恐るべき者の手からあなたを贖い出す。」エレミヤ書 15:19-21

イザヤもまた、こう言って同じ訴えをした。「イスラエルの聖なる方である主なる神はこう言われる。立ち返りと憩いのうちに、あなたがたは救われる。」さらにイザヤは、その「立ち返り」がたとえにおける「遅れの時」と関係していることを付け加え、こう書いた。「それゆえ主は、あなたがたに恵みを施すために待っておられる。それゆえ主は高くされ、あなたがたをあわれむために高くされる。主はさばきの神である。彼を待ち望む者はみな幸いである。」

エレミヤが指摘したように、神の「口」となる特権とは、アメリカ合衆国が「竜のように語る」時に、神に代わって語るという特権である。そのとき神の民が語る言葉は、教皇の獣の刻印に対する警告である。その栄光ある運動にあずかるには、私たちが立ち返る必要がある。

もしあなたが帰ろうとするなら、イスラエルよ、と主は言われる。わたしのもとに帰れ。もしあなたがわたしの目の前からあなたの忌むべきものを取り除くなら、あなたはさまようことはない。あなたは「主は生きておられる」と、真実と、さばきと、義をもって誓うようになる。そうすれば諸国民は彼によって祝福され、彼によって誇る。主はユダとエルサレムの人々にこう言われる。あなたがたの荒れ地を耕し、いばらの間に種をまくな。主のために割礼を受け、ユダの人々とエルサレムの住民よ、あなたがたの心の包皮を取り除け。あなたがたの行いの悪のゆえに、わたしの怒りが火のように出て、だれもそれを消すことができないほど燃え上がらないように。ユダで告げ知らせ、エルサレムで公にし、こう言え。「この地でラッパを吹き鳴らせ。叫べ、『集まれ』と。集結せよ。城壁で守られた町々へ行こう。」シオンに向けて旗を掲げよ。退却せよ、立ち止まるな。わたしは北から災いを、そして大いなる滅びをもたらすからだ。獅子がその茂みから上って来た。諸国民を滅ぼす者が道を進んでいる。彼はあなたの地を荒れ果てさせるためにその所から出て来た。あなたの町々は住む者もなく荒れ廃れる。エレミヤ書 4:1-7

しかし、主の霊がギデオンに臨み、彼はラッパを吹き鳴らし、アビエゼルは彼のもとに召集された。彼はマナセ全土にも使者を遣わし、彼らもまた彼のもとに召集された。さらに、彼はアシェルとゼブルンとナフタリにも使者を遣わし、彼らは上って合流した。士師記 6:34、35。